

NEWS RELEASE

報道関係各位

 2020年6月2日
 アライドテレスिस株式会社

【共同検証】

大容量給電を実現する最新規格 PoE++対応給電スイッチの 相互接続検証を実施

アライドテレスिस株式会社(本社 東京都品川区、代表取締役社長 大嶋章禎)は、株式会社 JVC ケンウッド・公共産業システム (本社 神奈川県横浜市、代表取締役 恩田茂) とともに電力供給技術の最新規格となる PoE++に対応するスイッチ製品と PoE 対応ネットワークカメラ製品との共同検証を実施しました。

【検証の背景】

4K/8K の高解像度・PTZ*1・ヒーターやワイパーの搭載による屋外対応などの高機能化されたネットワークカメラや、無線端末の普及による無線 LAN アクセスポイントの利用、およびアクセスポイントの高機能化にともない消費電力が増加し、より大容量の給電が可能な PoE 給電の需要が高まっています。

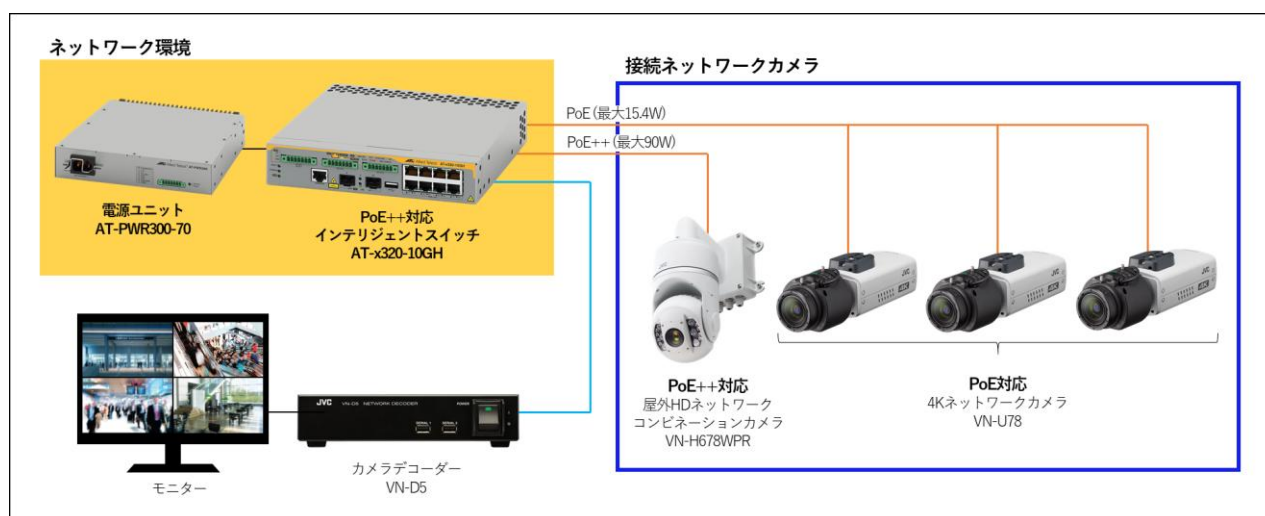
【検証の目的】

新規格 IEEE 802.3bt*2 PoE++に準拠した当社スイッチ製品による、PoE++対応ネットワークカメラをはじめとした、他社製の PoE 対応機器への給電、操作および高解像度映像データ転送の可否を検証しました。

【検証環境】

検証に使用した機器一覧

アライドテレスिस	PoE++対応機器	スイッチ AT-x320-10GH
		スイッチ用電源ユニット AT-PWR300-70
JVC ケンウッド・ 公共産業システム	PoE++対応機器	屋外 HD ネットワークコンビネーションカメラ VN-H678WPR
	PoE 対応機器	4K ネットワークカメラ VN-U78
	カメラデコーダー	4K 対応カメラデコーダーVN-D5



【検証結果】

新規格に準拠した当社 PoE++対応スイッチ製品に、問題なく他社の準拠製品がつながり、それらへの給電と通信ができたことを確認しました。

- ・ネットワークカメラに対して、PoE++(最大 90W)による安定した給電が確認でき、従来の PoE+(最大 30W)と比べて最大で約 3 倍の大容量の給電が可能であることを確認
- ・屋外用ネットワークカメラのパン・チルト・ズームが正常に動作することが確認
- ・各カメラの映像データがデコーダーに安定的に転送され、カメラの映像が途切れや画質の低下がなく表示できることを確認

上記より、安定した PoE または PoE++給電と大容量のデータ転送が必要とされる次世代型の高解像度映像配信システムには、ポートあたり最大 90W の PoE++給電が可能な AT-x320-10GH が集約スイッチに最適であることが確認できました。

■当社 PoE++スイッチ「AT-x320-10GH」の詳細は下記 URL をご覧ください。

<https://www.allied-telesis.co.jp/solution/x320/index.html>

【今後の展望】

これからもネットワークカメラおよび無線端末の需要拡大が予想されます。当社では、そのような需要に迅速かつ柔軟にお応えできるよう、さまざまな PoE++デバイスとの相互接続性の検証を実施していきます。当社は、今回のような新技術をお客様のネットワーク環境で安心してご利用いただけるよう、今後も付加価値の高いソリューションやサービスを提供することで、安心・安全で、より豊かな社会の実現に貢献してまいります。

以上

*1 PTZ(パン・チルト・ズーム)は、カメラのレンズを水平に動かす「パン」、カメラのレンズを垂直方向に動かす「チルト」、拡大・縮小を行う「ズーム」の 3つの機能を指します。

*2 IEEE 802.3bt は対応予定です。

注) 記載されている会社名および商品・サービス名は各社の登録商標または商標です。

注) 記載されている内容、サービス/製品の価格、仕様、お問い合わせ先、その他の情報は発表時点の情報です。その後予告なしに変更となる場合があります。また、記載されている計画、目標などはさまざまなリスクおよび不確実な事実により、実際の結果が予測と異なる場合もあります。あらかじめご了承ください。

<<製品に関するお問い合わせ>>

E-Mail: info@allied-telesis.co.jp

<https://www.allied-telesis.co.jp>

アライドテレスिस株式会社

<<ニュースリリースに対するお問い合わせ>>

マーケティングコミュニケーション部

Tel: 03-5437-6042 E-Mail: pr_mktg@allied-telesis.co.jp

東京都品川区西五反田 7-21-11 第 2 TOC ビル

【参考資料】

<PoE：Power over Ethernet について>

Power over Ethernet (PoE) とは、IEEE 802.3af として標準化されている、イーサネットの配線で利用されるカテゴリ-5 以上の UTP ケーブルを通じて電力を供給する技術です。主に電力供給の困難な場所に設置されたネットワークカメラ、スイッチングハブや無線 LAN アクセスポイント、IP 電話にて利用されています。PoE では、電力を供給する機器 PSE (Power Sourcing Equipment) と受電する機器 PD (Powered Device) に分けられ、2つの給電方法が定義されています。

<PoE++ について>

PoE++は、Power over Ethernet (PoE) の次世代の規格として 2018 年に規格 IEEE 802.3bt として策定されました。PoE++は、以前の規格 IEEE 802.3at (PoE+) の最大供給電力である 30W に比べ、およそ 3 倍となる最大 90W の電力を受電する機器 (PD) に供給可能です。PoE++は、ギガビットイーサネットと同様のケーブルを利用しての送電が可能のため、高機能な無線 LAN アクセスポイントや高画質の屋内外用ネットワークカメラなど、大容量データ転送とそのうえで必要となる大容量電力の送電が実現可能です。

<PoE/PoE+/PoE++の規格>

仕様／規格名	IEEE 802.3af (PoE)	IEEE 802.3at (PoE+)	IEEE 802.3bt (PoE++)
電圧(供給機器)	44V ~ 57V	50V~57V	52V ~ 57V
電圧(受電機器)	37V ~ 57V	42.5~57V	51.1V ~ 57V
電力(給電機器)	15.4W	30W	90W
電力(受電機器)	12.95W	25.5W	71.3W
対応 LAN ケーブル	CAT3 以上	CAT5e 以上	CAT5 以上
標準化年	2003 年	2009 年	2018 年